

# 原水爆禁止訴える サダコの折り鶴

## 諏訪市役所ロビーでポスター展



佐々木禎子さんの生涯をたどった  
ポスターのパネル展

原水爆禁止諏訪市協議会（宮坂茂雄会長）が主催する「サダコと折り鶴ポスター展」が22日、諏訪市役所ロビーで始まった。広島平和記念資料館（広島市）から借り受けた約20点のポスターパネルと、広島の高校生が描いた原爆の絵などを展示。広島で被爆し、死の床で鶴を折り続けた少女、佐々木禎子さん（享年12）の生涯をたどり、禎子さんと家族、同級生、同様に被爆した子どもたちの苦しみ、原爆のむごたらしさを伝えている。26日午後3時まで。

（日比野真由美）

禎子さんは2歳の時に爆心地から1・6キロほどの自宅で被爆。当時、外傷はな

## 子どもたちの被害に焦点

かったが小学6年生の時に白血病を発症。約8カ月間の闘病生活の中で、死におびえながらも回復を祈って千羽鶴を折り続けた。パネルでは元気な頃に運動会で活躍する姿、病床で回復のために激痛をこらえた様子などを写真と文で克明に見せ、父母や同級生の苦悩も明らかにしている。

展示は反戦と核兵器の使用禁止を訴える活動の一環。子どもたちの被害に焦点を当てた展示は初めてで、「禎子さんと同世代子の親子に見てもらいたい」（宮坂会長）との願いを込めた。市内在住の河西美恵子さんは「子どもの目線、立場での戦禍、生きざまに心を揺すられた。世界は戦争や侵略が相次ぎ、各国がいがみあい、核の使用をちらつかせる危険な状況。個々の力は小さくても何かしなくては、平和への声を上げなくてはどの気持ちに突き動かされた」と話していた。